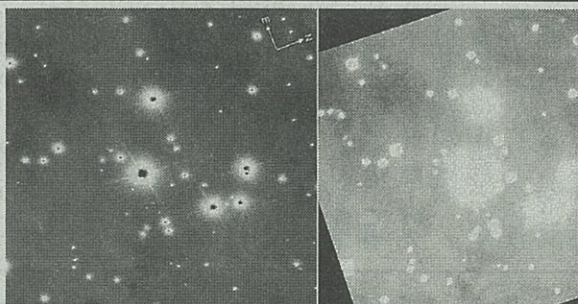


すばる望遠鏡

星の画像 10倍鮮明に

国立天文台と理化学研究所は二十一日、米ハワイ島のマウナケア山頂にあるすばる望遠鏡の解像度を約十倍にする新技術を開発したと発表した。画像がぼやける原因とな



自動修正技術を使い撮影したオリオン座⑤と、修正せずに撮影したオリオン座(国立天文台提供)

国立天文台など 大気「揺らぎ」自動補正

大気の「揺らぎ」を自動的に補正。遠く離れた星の観察に使う近赤外光に限ると、米ハッブル宇宙望遠鏡の三・五倍の解像度で、世界最高レベルの性能になるという。

約一年後をメドに本格的に利用する予定で、誕生から間もない宇宙の姿を調べる研究などに役立つという。大気の「揺らぎ」は、プールを上から眺めると水の影響で底が揺らいでいるように見える現象。地上から望遠鏡で星を観測すると、揺らぎで星が放つ光が乱れ、画像がぼやける。

新技術はレーザー光線を照射、観測したい星の近くに人工的に光源を作る。この光源から地球に届いた光を分析して大気の揺らぎが画像に与える影響を推定、修正する。